

県内の情報連絡員報告

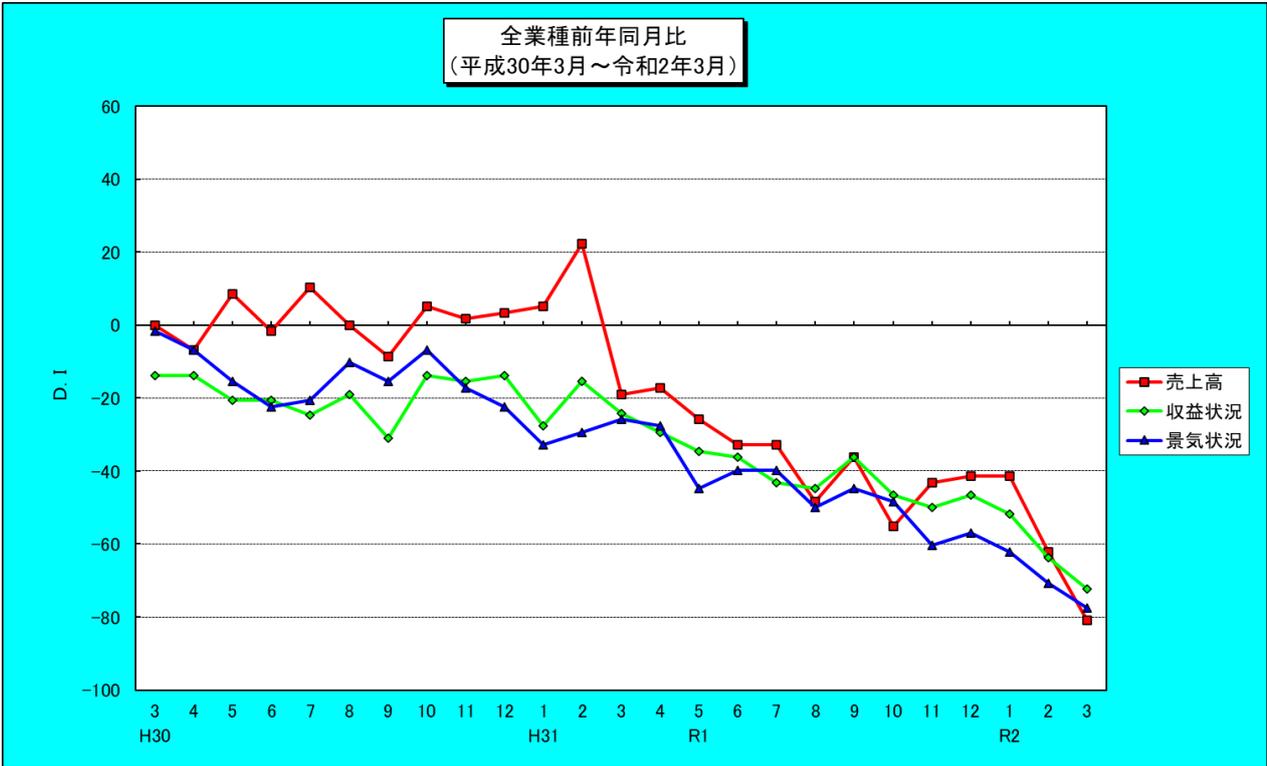
石川県中小企業団体中央会

令和2年3月分

令和2年3月期において

- D.I値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、9項目中、7項目が悪化、2項目が横ばいとなった。新型コロナウイルスの感染拡大により、先月に続き売上高がさらに大幅な悪化となり、資金繰りにも悪化の影響が出ている。先行きの見えない状況に事業者は過去にないほどの危機感を感じている。
- 製造業においては、7項目が悪化、1項目が横ばい、1項目が上昇であった。資金繰りの悪化幅が大きく、売上高や収益状況、業界の景況は非常に低い水準に留まっており、業況はさらに厳しさを増している。悪化していたのは、学校が休校になり給食委託に影響のあった食料品製造業、内需不振及び世界経済の悪化に伴い輸出が落ち込んだ繊維同製品製造業、テレワークの拡大やキャッシュレス取引の増加で印刷物に影響があった出版・印刷業、海外からの部品調達の遅れや大企業工場の操業停止により受注の減った一般機械器具製造業や鉄鋼・金属製品製造業などであった。好調であったのは、暖冬で雪もなく住宅の着工が順調に進んだ一部の木材・木製品製造業などであった。新型コロナウイルスの感染拡大により休業や自粛などさらなる経済活動の停滞が考えられ、今後の影響が懸念される。
- 非製造業は、6項目が悪化、1項目が横ばい、1項目が上昇となった。新型コロナウイルスの感染拡大により、観光客だけでなく客数全体も激減し、様々な業種でかつてないほどの厳しい業況となった。悪化していたのは、イベントや外出の自粛による経済活動の鈍化で売上が減少した燃油小売業や水産物卸売業・水産物小売業、予約キャンセルなどで観光客が激減した土産品小売業や旅館・ホテル業などであった。一方、悪化の中でも健闘したのは、自宅で過ごす時間が増えたことにより4Kテレビやエアコンが前年並みの販売を確保した電器製品小売業、天気が回復し、屋外での作業がし易くなったことにより売上が冬場より回復した板金工事業などであった。
- 働き方改革関連法の対応について
 全業種では、働き方改革関連法の対応状況について、「おおむね対応は進んでいる」が70.0%と多く、「あまり対応が進んでいない」が28.0%、「いずれとも言えない」が2.0%と約7割が対応を進めている。業種別では、非製造業の方が「あまり対応が進んでいない」割合がやや高く36.0%、製造業では20.0%であった。対応が進んでいる内容としては、「年次有給休暇取得の義務化」、「時間外労働の上限規制」が多かった。中小企業においても2019年4月から年次有給休暇取得の義務化、2020年4月から時間外労働の上限規制が適用されたことにより、取り組まれたところが多いと思われる。一方、「あまり対応が進んでいない」理由として、「新型コロナウイルスの影響」、「人材不足」、「小規模・個人事業者」のため、対応したくてもできないといった声が聞かれた。また、2019年4月から適用された「年次有給休暇取得の義務化」の影響については、「影響はなかった」が62.0%と最も多く、「悪い影響があった」、「良い影響があった」はともに18.0%、「どちらとも言えない」は2.0%であった。事前周知により早めに対策ができたことが大きいと考えられる。製造業においては、「おおむね対応は進んでいる」が80.0%と大半である。法適用された内容以外でも、従業員にとって働きやすい環境づくりのため、労働時間の客観的な把握などにも積極的に取り組み、生産性向上をはかっているところも多い。非製造業においては、「おおむね対応は進んでいる」が60.0%、「あまり対応が進んでいない」が36.0%であった。人手不足により新たな雇用が生まれず、限られた職員数では対応が難しいといった声や、新型コロナウイルスの影響により、サービス業等においては特に厳しい状況である。

◇全業種の前年同月比推移 (H30.3~R2.3)



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	観光客向け小売りと外食向け業販が激減した。3月の売上高は昨対微増(1%)であった。当地の状況からすると巣ごもり需要とまでは言えないが、内食は幾分増加したと思われる。このことに関連して料理の幅を広げる目的から簡便調味料のお試し需要なるものが発生している。
		パン・菓子製造業	学校給食委託について、新型コロナウイルス、組合員の倒産により92%減となり厳しい状況である。
		パン・菓子製造業	新型コロナウイルス感染拡大に伴う祝い事の卒業・入学式や会合等の中止・縮小などの自粛により、急速に売上高及び収益についても激減し、今までに経験のない落ち込み幅である。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	中国で発生した新型コロナウイルス感染拡大による催事の中止、観光客の減少、販売店の休業や販売時間短縮等々計り知れない産業界への打撃、庶民の活動自粛・消費の減少から当地織物業界においても受注の減少は凄まじく、経営環境は著しく悪化している。 対前年同月比生産(絹織物35%減少、合織1%減少)全体で1%減少。特に絹織物については低下傾向にあり、新型コロナウイルスの影響が出ている。工業資材関連についてはあまり影響が少ない。 感染症の拡大を避けるための入国規制などにより、外国人技能実習生が来日できない事態が続いている。実習生が労働力として支える繊維産業においては人手不足が深刻化。
		その他の織物業 (染色加工)	売上高は落ち込みが大きく昨年同期の50%ほどとなっている。収益状況も悪化が見られており、新型コロナウイルスの経済が停滞する状況も重なり、現状はともて厳しく業界にとっては過去にないほどの危険な状態にある。職人の中には生計をたてるため、他の業種に就職をした者も出てきている。このままの状況が続くと大幅に職人が減少することが考えられる。
		ねん糸等製造業	4月以降、減少の傾向にある。内需不振及び世界経済の悪化に伴う輸出アイテムの減少により、「売上高」「収益状況」共にマイナスになっている。今後、新型コロナウイルスの影響で受注状況が悪くなると思われる。
		製材業、木製品製造業 (加賀方面)	3月度売上は昨年と比較すると10%ほど上がっている。3月度も2月度と同じく、今年は暖冬で雪が降らない為、住宅の着工率も例年の冬と違い若干だが多くなっているが、ここに来て新型コロナウイルスの影響で設備器具の入りが悪くなっているため、住宅の着工も遅れが出てくると思われる。これからどうなるか心配である。売上げ中身を見ると2月と同様、粗利率が相変わらず下がっている。原因は2月度と同じく原材料の値上がりが大きく響いている。そして、電気、燃料(重油)、昨年4月依り値上がり電気で約10~15%値上、重油の価格も昨年高い時約45%値上だったが、最近では新型コロナウイルスの影響で価格は下がっている。世界事情が大きく影響している。新型コロナウイルスの影響は少し出ているが、まだ大きく影響は出ていないが、いずれ関係してくると思う。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (能登方面)	2年3月取扱量1,580m ³ (-765m ³)、売上金額21,286千円(-6,684千円)、平均単価13,468円(+1,544円)。市況は全体的には大きな動きはなく保合いであったが、購入者の購買意欲が、徐々に落ちている感否めない。世界情勢がよくない中で、不透明感が漂い、思い切った購入ができないのが原因だと思われる。
		製材業、木製品製造業 (金沢方面)	令和元年度決算は良好に終える事が出来た。今後の状況については、好材料は全く無く、コロナによる影響は底なしで予想すら出来ない。
		印刷業	新型コロナウイルス感染症の影響が、増加傾向にある。先月はイベントの中止や延期に伴い、仕掛中の印刷物が取りやめとなったと報告していたが、今月に入り通常の印刷物の発注も抑えられる傾向が出始めている。チラシやパンフレットの薄紙に留まらず、パッケージや箱に使う厚物といった用紙の出方が急激に減少している。特に観光客の激減に伴い土産ものの売り上げが下がったことから、紙製品の容器や箱類も生産を抑える傾向となってきた。また、県外への出張や営業活動も制限されており、新たな需要に期待できない状態となっている。よって、売上高、収益状況とも低調に終わっている。さらに世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で、ドイツで4年に一度開催される印刷機材の世界的な展示会であるdrupa2020もオンラインと1年延期となった。これにより、日本国内の印刷に関する展示会も縮小傾向が明らかになった。このような中で、組合員企業から新たな設備投資の意欲は感じられない。また、一般消費者のテレワークの拡大、キャッシュ取引の増加などから、益々紙メディアの依存が減ってきていると予測される。しかし、教育分野における教材としての紙の役割に期待感をもっている。学校教育の現場でも脱紙の教科書の傾向があるが、是非とも副教材などに紙製品の活用を期待をしたい。特に、日本の文化でもある書道や折り紙は、和紙などの紙を実際に使うことで上述するものと言える。
	窯業・土石製品	砕石製造業	3月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向けは出荷34.5%、合材用アスファルト向け出荷は86.3%増、特需による出荷量は無く、全出荷量は30.2%減少となった。対前年比では、生コン向けは出荷9.5%減、合材用アスファルト向け出荷は4.8%減、特需による出荷も、54.0%減、全出荷量では、11.0%の減少となった。これらは、新幹線延伸工事が終盤にかかり、年度当初の見込みの範囲内である。
		陶磁器・同関連 製品製造業	世界的な新型コロナウイルスの影響による2月からの流れで売上高・収益は徐々に減少傾向だったが、3連休明けから東京の感染者急増から一気に売り上げがなくなっている状況。また、ゴールデンウィークのイベント等に向け準備進めていた品ぞろえなどが在庫となり、支払いを圧迫しているなど厳しい状況が続いている。当然、人が動かないので地元の観光は全滅状態である。特に観光バスの利用が皆無である。
		生コンクリート製造業	2020年3月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比69.9%(組合員外社を除くと66.1%)となった。各地区の状況は、前年同月比がプラス値になったのは羽咋鹿島地区で122.5%、七尾地区で162.3%となり、その他の地区は、南加賀地区が64.0%、鶴来白峰地区が79.1%、金沢地区が70.9%、能登地区71.7%とマイナス値となった。プラス値となった羽咋鹿島地区においては民間工場の新築工事による出荷の増、七尾地区は前月同様ホテル建設等の出荷が増えているものの、全体的な出荷量としてはあまり多いとは言えない状態である。3月末日の県下生コンクリート出荷量の官需、民需(組合員外社を含む)の前年同月比は、官需65.7%、民需76.3%となっている。
		粘土かわら製造業	売上高、収益において出荷量が減少していること事から悪化した。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	昨秋の米中貿易摩擦の影響が出始めたところに、今の新型コロナウイルスにより営業活動が停滞し支障が出ている。新型コロナウイルスは国内外で感染拡大に歯止めがからず、出入国制限や行動の自粛要請による社会・経済活動の停滞が懸念される。現状の稼働率は安定しているが、受注が縮小しており、先行きは厳しい状況が見込まれる。
		非鉄金属・同合金圧延業	新型コロナウイルスの影響で観光客が極端に減少し、売上が70%~80%激減した。
		鉄素形材製造業 (鉄鉄鋳物の製造)	3月の生産量は前月比0.8%のプラス、前年同月比17%のマイナスと20カ月連続のマイナスとなっている。コロナ&米中関係による全世界の景況悪化に伴いすべての向け先がさらに減少している。また、2020東京の開催延期による経済への影響がどうなるか懸念される。組合員の状況としては、景況悪化により雇用調整金を申請または準備中の組合員が多くなった。すべての組合員が今回のコロナが景況に及ぼす影響を危惧している。
		鉄素形材製造業	組合員全体で仕事量が落ちており、5月以降に雇用調整助成金の申請を考えている組合員や金融機関に運転資金の相談をしている組合員が増えている。一方で、若い人材確保のチャンスととらえている。米中貿易摩擦、台風による水害、消費税の10%、新型コロナウイルスと経済の悪化が進行し、全般に2020年に入り売上げが20%以上低下しているとの声が出ている。工作機械・プレス業界はまだ注文残がありまだ慌ただしい状況にあるが、6月以降は激減すると見込まれる。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	対前年同月比▲34%のダウン。先が見通せないで不安が募りますが、こんな状況だからこそ、中長期的な展望を持って粛々とやるべきことを愚直に実行し、大局的な観点のもとで、柔軟に情勢を見極める必要があると考える。これから先の組合員の状況が心配される。	
		一般産業用機械・装置製造業	新型コロナウイルスの影響で販売活動に支障が出ている(客先へ伺えない)。これまでの受注で減少ながら生産活動は行っているものの、夏以降に大きな影響(売上げ、仕入れ)が発生すると懸念。建設業界は底堅く推移していたものの、オリンピック開催延長に伴い各種建設、構造物プロジェクトの行方が不透明。自動車関連部品はほぼ全減状況、自動車メーカーの操業が停止し先行きも見通せない。	
	一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	当組合は鉄工関係の中小企業100社で構成されている団体であるが、業況については扱っている業種によって多様である。しかしながら多くの組合員企業では産業機械、工作機械、繊維機械など輸出に関連した仕事をしており、この一年は世界的な設備投資の減少、とりわけ米中の貿易摩擦の悪化が長期化する中で受注は大幅に減少してきた。さらに新型コロナウイルスの感染拡大による影響は大きく、中国など海外からの部品供給の遅れが生産活動に大きな支障となっている。その結果、今期は売上げが大きく落ち込むことが予想され、また世界的な感染拡大が続いていることから、新規受注についても期待ができない状況が続くものと思われる。	
		機械金属、機械器具の製造	現在までは大きな変動はないが、新型コロナウイルス関連で受注減が出てきた事業もある。	
		繊維機械製造業	受注環境が改善しているとは言えず残業で稼働しているのが主流。当該組合員企業における一般機械関連部品加工/繊維機械/建設機械等の関連の売上状況は前年同月比較でみると、総じて30%近く下回った水準を示している。新規受注のレベルが低いまま推移している状況。繊維機械・建設機械等も、なかなか先の見えないなかにある。新型コロナウイルス関連での、様々な影響が出ている。ただ一部中国市場の内需に動きが始めている。また工作機械関連を含めた、一般金属機械加工業全般における新規受注状況は、同じ様に低迷したままで改善はしていない。コロナウイルスの影響と業界が不活発なこともあり、自動車業界・工作機械業界で、大手企業の工場停止がみられている。	
		機械工作鋁金加工	工作機械の売上の前月比は100.2、前年同月比は64.3となっている。先月2月が本集計開始以来(2015年以来)最低となったが、2月からほぼ横ばいとなっている。3月の年度集計について、2018年度集計に対し2019年度累計は前年比65.1%となった。工作機械売上減少に関しては、2019年度で見て落ち込みが大きいことから、大きい要因は米中摩擦と中東不安定、欧州EU不安定が根底にあると思われる。1月辺りから騒がれている新型コロナによる要因ではない。新型コロナの影響としては鉄工関連の資材入荷はそれほど影響を受けていない。しかし、中国生産物や衛生関連の品物は品薄で入手しにくい状況であるが、これについてはどの業種も同じである。新型コロナによる経済に対する影響はまさにこれから徐々に大きくなっていくものと思われる。ただし、忘れてならないのは新型コロナそのものが直接、経済を不安定にしているのではない。人的活動が経済を左右するという。環境が変わり、生活が変われば需要も変わり供給も変化していくのが自然の流れであると思う。2020年度問題として働き方改革やインダストリー4(第4次産業革命)という節目でもあったわけだから、活動を休止するのではなく、新たな活動方法を模索していくことが必要となる。	
		機械器具及び其の他金属製品の製造	前月比・前年同期比から業績状況を除いて全て横ばいである。新型コロナウイルスの影響が5月ごろから急激に出てくるだろう。輸送機器は、前月比から売上・業績状況マイナスであるが資金繰りは悪くなっていない。見通しは採算性・業績は悪くなっている。5月から新型コロナの影響が出てくる。電気機械は、前月比から全て横ばいである。見通しが採算性・資金繰り・業績状況が悪くなっている。液晶関連は前月比から横ばいである。繊維部門は、前月比から売上は良くなっているが業績は悪くなっている。コロナウイルスで業績悪化が加速気味である。繊維機械は、オートワインダー前月比から横ばい・革新紡の生産は前月から減少気味である。	
		機械金属、機械器具の製造	売上・収益共低調。(米中貿易摩擦の影響)、工作機械関連、建設機械関連は低調。繊維機械関連は復調したが、6月以降は未定(コロナの影響)	
		機械金属、機械器具の製造又は加工	売上高は対前年同月比20%強の減少となる見込みである。新型コロナウイルスの影響が今後どのような形で影響してくるのか全く見通せない。第1四半期から影響が出るとみているが、取引先の状況も変動しており、現状では今後の見通しは不透明である。現在、主要取引先も生産計画を見直し中のため、今後明確になってくるとと思われる。	
	その他の製造業	漆器製造業(能登方面)	3月中旬から新型コロナの影響が大きく始めている。今後の見通しが立たない状況である。	
		プラスチック製品製造業	組合員は幅広い業界の委託を受けて生産しているが、新型コロナウイルスの影響を受けている企業は多いようである。食品一般食品は長期保存ができるものや備蓄品の商品は好調のようだが、消費されているかはわからない。観光関係-石川県は良くないが、関東・関西・首都圏や他県に比べるとまだよい。外出の自粛で国内需要が大幅に落ち込んでおり、昨年から落ち込んでいた海外からのインバウンドに加え更に落ち込んでいる。部品関係はまだ多少の落ち込みはあるものの現状大きく落ちてはいないが、4月以降は落ち込むと思われる。一部の医療・食品に関連した製品を生産している所は多忙と聞くが、全体としては観光関連業種は直接・間接問わず大きく落ち込んでいる。石川県でも地場に根付いているメーカーは堅実だが、観光にシフトしていることによる影響は大きい。	
	非 製 造 業	卸売業	各種商品卸売業	コロナ感染症の影響を受け、人・物の動きが停滞し始め、資材の入手が困難となり、中小零細卸売業は大きな打撃を受け、売上・収益とも前年同期に対して、全体的には2割強の落ち込みが予想されている。新型コロナウイルス感染症が全世界の経済に影響を及ぼし、為替相場、株価も乱高下し、製造業、個人消費も低迷、各企業は今後の経済活動の方向性を模索し検討も余儀なくされるようになっている。
			一般機械器具卸売業	住宅市場、非住宅市場ともに低調なところへ新型コロナウイルス問題によるサプライチェーンの崩壊は以前続いており、現場行程の停滞が続いている。展示会やイベントも軒並み中止となり先行きの受注活動も停滞している。結果として、売上、収益ともに前年を下回っている。
			水産物卸売業	新型コロナウイルスの影響で売上高は対前年比81%と大きく落ち込んだ。宴会や会議の自粛による影響が大きい。4月以降どこまで続くのか大変不安である。
各種商品卸売業			業種により、新型コロナウイルスの影響は様々である。深刻なところもあれば、なかにはほぼ影響のない会社もある。	
小売業	小売業	燃料小売業	当月に入り原油価格の下落が続いており、それに伴いガソリン等の価格も下落している。さらに、販売量も減少しており、売上の減少につながっている。新型コロナウイルスが世界で蔓延し経済活動が停滞、国内経済も同様に停滞するとともに外出自粛要請もあり、ガソリン需要が低迷している。更に、OPECとOPECプラスの協調減産期限が3月末で終了、協定延長は合意できなかったことから、4月以降はサウジアラビア、ロシアが増産を表明、UAEも増産を表明していることから、価格競争と需要低下の中でのシェア争いに拍車がかかることが予想される。新型コロナウイルスの封じ込めと実態に即した中小企業支援、大規模な経済対策が望まれる。	
		機械器具小売業	3月は例年通り多くの組合員店は個店を閉じた。新型コロナウイルスの影響で来店数は減少したが、自宅で過ごす時間が増えたことで4Kテレビ104%、エアコン117%と前年並みの販売を確保。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、国内消費にも及んでおり、特にイベントや移動の自粛により、家電販売への直接的な影響も大きくなってきた。地域家電店においても、世界的な商品供給体制の崩壊により、すでに一部の商品では供給が滞ってきた。洗濯機72%、掃除機71%、冷蔵庫85%など予断を許さない。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	小売業	男子服小売業 婦人・子供服小売業	春物商戦の本格的販売時期に前月より新型コロナウイルス感染拡大防止によるイベント・外出自粛や臨時休業の追い打ちでマスク姿での接客、客数も30～40%減少し、商品回転率が悪く、資金繰りに多大な影響が発生する懸念で厳しい状況下である。
		鮮魚小売業	3月期は、前月に引き続きコロナウイルスでイベントの自粛により、売上が減少し、収益は悪化している。外食の飲食店については、宴会や団体のキャンセルが継続しており、業務用は引続き芽えない状況であり、厳しい経営環境に置かれている。今まで観光客で潤っていた部門が極端に悪化している。一方、コロナウイルスの影響により、自宅での食事が増加したのか、内食用の食材が一部増加している。ただし、自宅での内食は若干の増加であり、急回復とはいかない。
		他に分類されないその他の小売業	コロナウイルス流行で経済活動が停滞し、観光業界は大打撃を受けている。売上は50～60%減。団体は95%キャンセルとなっている。組合員の企業体力が心配である。デパートや駅の売上も大幅減少している。先の見えない状況が続くと資金不足で倒産もありうる。
		百貨店・総合スーパー	売上昨年対比：62.29%、客数昨年対比：76.38%。(ファッション：62.22%、服飾・貴金属：44.86%、生活雑貨：75.19%、食品：83.79%、飲食：78.17%、サービス：41.17%)。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全体的に売上・客数ともに大きく昨対が下がっている。来店客の動きをみても、食料品等の必要な物だけ購入しすぐに帰る(長時間滞留しない)傾向が強くなっている。感染拡大防止のため、予定していた集客イベントはすべて中止しており、例年であれば集客が予想されるGWもどうなるか分からない状況である。本来であれば観光客の姿が見られる時期であるが、自粛の影響から観光客の姿はなく、フードコート等イートインの店舗は売上が昨年の半分以下になっているなど、非常に厳しい状況になっている。今後この状況が長引くことが予想され、複数の店舗から不安の声が出ている。
		農業用機械器具小売業	3月売上は昨年同月と比較すると10%の落ち込みとなった。新型コロナウイルスの影響で、組合員企業の展示会が振るわない。集客が少なく、売上げにも影響が出ているように思える。それによって組合への購買注文も減少しているといったように負の連鎖となっている。この状況が改善していくことを祈るしかない。
	商店街	近江町商店街	コロナウイルス感染症の影響での来場者が6～7割減少した。営業確認などの電話問い合わせが増加し、場内の混み具合を確認される方もいた。店舗によっては4月以降の営業時間短縮や休業について検討している。
		輪島市商店街	「新型コロナウイルス」の感染拡大で本当に厳しい状況になってきている。早く収束を祈るばかりである。朝市をはじめ観光客の激減と外出を控えてのメッセージでさらに自粛ムードに拍車がかかり、大変厳しい状況である。昨年対比売上84.06%。
		片町商店街	商店街なので各店によって違うが、コロナの影響が拡大するにつれて日々来街者と観光客が減っていき、物販よりも飲食店のダメージが大きい。売上は当然減少。今後どこまで感染が拡大するかによって相当な売上ダウンが予想される。収益もそれによって悪化をされていると考えざるをえない。また、資金繰りに関しては不変としたが、今後は景気の悪化と行政による特別支援策の状況で変わってくるであろう。雇用人員は現在は不変ではあるが、これ以上コロナの影響が出てくると雇用の維持が難しくなる店舗も出てくる可能性があると思える。
		堅町商店街	新型コロナウイルスの影響で収益、集客ともに最低となった。3月中旬より売上が50%程度にまで落ちている。リーマンショックの時は製造業から落ちていったが、今回は消費からだめになっている。特にサービス、飲食業は70%～80%ダウンになり、オーナーに対して賃料の減額などさまざまな事が起こっている。小売業、飲食業の倒産も多く発生すると思われる。何をすれば良いのか先が読めない。
	サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	新型コロナウイルスの影響で稼働率はおおむね30%程度、客室販売も30%を下回るようになる。客単価も低下している。4月の予約キャンセルが大量に発生している。飲食業も低稼働である。
		旅館、ホテル (加賀方面)	2月後半より、新型コロナウイルスの影響を大きく受ける状況となり、インバウンド客についてはほぼ0に近い状況で、国内客については、イベントの自粛以降キャンセルが発生、3月下旬には予約が発生しない状況となっている。団体客、募集型ツアーについては全滅である。わずかに個人客を中心に需要がある程度で、売上の確保が難しくなっており、資金繰りに関わる動きが活発になっている。
		旅館、ホテル (能登方面)	新型コロナウイルス発生をうけて、温泉地全体の3月宿泊客数は、前年同月比約57.4%とかつてないほどに大きく減少した。売上も当然大きく減少することが見込まれる。当月はすべての旅館が昨年実績を大きく下回り大変厳しい状況におかれている。コロナウイルスの発生状況も広がりを見せるなか、日を追ううちに宿泊予約キャンセルも増えていったが、それ以上に新規の予約発生がない。4月から休業する旅館も少しずつ出ていて、今後増えていってしまう。
		自動車整備業	コロナショックで入込客数対前年比45パーセント、売り上げ48パーセントで大幅減少。3月の能登和倉万葉の里マラソン大会の中止(宿泊約1400人キャンセル)をはじめ、サッカー合宿大会のキャンセル(宿泊約5000人キャンセル)、台湾等のインバウンド団体旅行のキャンセル、卒業旅行、地元での送迎会自粛など、大変厳しい状況である。景況悪化により2館が休業中であり、この状況が続けば休業も増えて、雇用の不安定化と経営基盤の悪化が出てくる。4月からGWまで、のとじま水族館や能登食祭市場などの施設が休業、青柏祭が中止となるなど、観光は悪化の一途である。
		板金・金物工事業	車検需要は、震年にあたるなか前年対比で、登録車93.6%、軽自動車98.4%、全体95.3%で推移。年間では登録車98.0%の251,783台、軽自動車102.0%で149,337台、合計99.4%で401,120台と前半の貯金がマイナス幅を圧縮した。新車販売市場の3月は登録車84.8%の4,963台、軽自動車は89.7%の2,601台、合計では86.4%の7,564台であった。年間ではコロナウイルス及び消費増税の影響により半年6か月のマイナスであったが、前半の貯金で55,768台の93.5%でなんとかしのげたと考えられる。
	建設業	管工事業	3月度における受付件数は前年同期比で、給水装置工事が56%増加したが、ガス工事は39%減少した。収益は、給水装置工事が60%増加、ガス工事は33%減少した。10～3月の下半期での受付件数は、前年同期比給水装置工事が2%、ガス工事の受付件数が22%それぞれ減少し、収益では給水装置工事が1%、ガス工事が15%減少した。通年で、受付件数は給水装置工事が2%、ガス工事が13%それぞれ減少し、収益では給水装置工事が1%、ガス工事が24%減少した。
		一般土木建築工事業①	コロナウイルスの関係で、建築資材の衛生器具や浴室器具等調達に厳しくなっている。土木資材では、中国産石材が調達できない。全体的に、消毒液やマスクが不足がちである。
		一般土木建築工事業②	公共事業では、昨年同期に比べ、単月契約件数、単月契約金額で上回ったものの、累計契約件数、累計契約金額は減少した。このことから、売上高、収益状況は昨年同期に比べ減少していると推定される。今後、新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されるところであり、動向に注目したい。
		一般貨物自動車運送業①	新型コロナウイルスの影響ができてきて輸送量が減少しておりトラックの空車が目立つようになってきている。前年同月と比べ売上については1～2割減であるが、原油がコロナの影響を受け格安となり燃料価格が前年同月価格の▲20円となっており収益について同レベルとなっている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業②	輸送需要は対前年比102.8%で売上高は微増している。燃料価格は原油価格の値上がりにより高値を推移していたが、3月は軽油単価が約10円下がり収益にプラスに転じているが、対前年比ではそんなに変わっていない。